

## 2020年11月 台風19号被災地支援 活動報告

2020年11月2日、今年最強と呼ばれる台風19号（アジア名：コーニー）がフィリピンに上陸いたしました。政府の公式発表によると少なくとも16人が死亡、家屋2万棟以上が倒壊、約55,000棟が半壊しました。



私たちはその翌日、私たちのパートナーでもあり長年の友人でもあり「マニラ・ラハ・ソライマン・ロータリークラブ」のリーダー：リッキー氏から連絡を受け、現地の状況を知らせていただきました。

猛烈な台風は首都マニラを襲い、海沿いの地域や河川は氾濫し、凄まじい強風が家々を襲いました。



今回最も被害を受けた地域は首都マニラから北東に車で約 12 時間に位置する「BICOL」というエリアです。

ここは以前私たちがボランティア活動を行った地域でもあり、私たちにとっても思い入れのある地域でした。

台風の爪痕は大きく、木々や電柱がなぎ倒され道路を封鎖してしまいました。電気は止まり、町中が冠水しました。

スラムではもともとの家の作りが脆弱なため屋根や柱は飛ばされ多くの住民が近くの教会に避難しました。

マニラチームは翌日チームを編成し、支援活動の準備を始めました。

その際、マニラで保管されている日本の皆さんが集めてくださった物資（歯ブラシ・タオル・固形石鹸）の他に古着や靴なども支援物資に使用させていただきました。

特に、下水処理などのインフラ整備が十分でないスラムでは、冠水後とても不衛生な状況になるため、タオルや固形石鹸はとても重要な物資となります。

今回、第一弾の支援活動として 1500 人分の物資が作られました。

一つのバケツには歯ブラシやタオル・固形石鹸の他に食料やキャンドル（電気が止まっているため）などが詰められました



現地では彼らのチームの旗の隣に、私たち「ハローアルソン」の団旗も掲げられ、「私たちの活動は常にあなた達と共にある」というメッセージが届きました。



現地の様子です。

家は吹き飛ばされ、木々は倒され、改めて台風の被害の大きさがわかります。

教会では多くの住民が列をなして物資を受け取っています。



現在コロナ禍のためフィリピン政府や行政の支援活動が遅れている中、彼らの迅速な行動と日本の皆さんの物資のおかげで多くの方が安心と笑顔を取り戻すことができました。

しかし、未だ（2020年11月19日現在）電圧が安定せず生活は大変苦しい状況です。

今回、私たちは物資の支援と共に彼らの活動と被災地のために義援金も募集いたしました。日頃よりこの活動を支えて下さる方々、また、各支部、各地域の皆さんの心温まるご協力を賜り心よりお礼申し上げます。

義援金は当会が責任をもって「マニラ・ラハ・ソライマン・ロータリークラブ」に送金させていただきます。

今後とも当会の活動にご協力賜りますようよろしくお願い申し上げます。